

2024 年度入学試験 国語 第 1 回 問題解説

洗足学園中学校

1 出典：ベルナール・スティグレール『向上心について一人間の大きくなりたいという欲望』メランベルジェ真紀 訳

問一 空欄補充問題です。□(1)□に入れる言葉を五字以内で書きます。20～21 行目の箇所では「18 世紀の最後の最後までずっと、哲学といえば神学、つまり神についての学問であり」、25～27 行目の箇所では「教条主義を拒否していた哲学者たちも無神論者だったわけでは全くなかった」と書かれています。そしてその次の文で「□A□19 世紀の初めになって、哲学では突然、神は死んだと主張し始めたのです。」となり、ニーチェの「神は死んだ。そしておまえたちが神を殺したのだ」へとつながります。□(1)□の直後に「ニーチェの言葉が意味していたのは、もう人間社会は聖書の啓示のままには動いていかないということです。」の一文があるのです。哲学者ニーチェが言う「おまえたち」に近い表現を抜き出すとすれば「人間社会」となりますが、これでは「おまえ」という人称(人物)に対応しません。したがって「人間」を取り出し、哲学者ニーチェから見た「お前たち」、すなわち「私たち人間」、つまり今日の私たちのことを言っています。正解は「私たち人間」となります。「無神論者」では文脈上、18 世紀までの投獄された思想家などを指しますので、□(1)□には対応しません。

問二 三行記述問題です。傍線部(2)から、「宗教への回帰という現象」を説明する問題です。第 5 段落の内容をまとめます。まず 49～51 行目に「私たちはもう何も信じられないという時代に生きています」「何もかもが疑わしい時代です。」と書かれています。ところが、現代は「資本主義」の時代で、54～58 行目に「資本主義は信用を前提としていますが、でも信用というものがあるためには、未来を信じなければなりません。なのに今の世界にはもう未来を信じる気持ちなくなってきましたから、そういうわけで昔の信仰に戻ろうとする人たちがいるのです。信仰というのは資本主義以前の信仰のかたちということで、…」という流れになっています。この一連の流れをまとめて書けば正解です。文末は「…現象。」とします。

問三 三行記述問題です。傍線部(3)「この合理化によって、あらゆる気持ちが破壊されてしまい」とあるので、「合理化」の言い換え、「あらゆる気持ちが破壊された」の言い換えをしていきます。「合理化」とは直前のマックス・ウェーバーが言う「合理化への信仰」、すなわち「すべてを計算可能とみなす」ことを指します。この内容はさかのぼって 34～38 行目の内容が対応しています。つまり、これまでの信仰や啓示から(これまでの宗教)、人間の進歩を信じるということへと、信仰の対象が移ったということ

です。しかしニーチェは、「それによって人間は結局もう何も信じられなくなるだろう」(ニヒリズム)と言います。つまり、すべてが計算の対象となり、新しいことを知りたいという欲望さえ計算の対象になってしまうため、そのことで子どもが大変なことを好んでやる気持ちが失われてしまうということを、「あらゆる気持ちが破壊された」と述べているのです。これら一連の流れを記述できれば正解です。

問四 選択肢問題です。傍線部(4)の内容を読みかえると、人間は計算できないことだからこそそれを「信じる」という受け入れ方をする、ということです。正解はウです。ア「人は合理化によって世の中を知りたいと思う」、イは「希望を失わずに生きる…信じる気持ちを失った」、エ「信じる気持ちを失ってしまったので、常に疑うという気持ちを強くして…」がそれぞれ誤りです。

問五 三行記述問題です。傍線部(5)「神が死んでしまった現代において信じる対象になりうるものは、やはり〔神がかつてそうであったように〕別の次元を構成しているものだ」から、「別の次元を構成しているもの」を説明する問題です。ここは「神がかつてそうであった」の説明をして、同じように存在するものとして「別の次元を構成するもの」を説明します。神の存在の仕方については、第10段落中、103～105行目に「神は自然の中にいるわけではないし、時間の中にもいないし、空間の中にもいない。なのに神は、時間と空間の中に生きる存在として不可欠なものなのです。」とあります。さて「信じる対象になりうる」「別の次元を構成するもの」とは、第9段落中、84行目にある「確固としたもの」です。そしてそれは88行目にあるように、「そのものとしては存在してはいないのに、生に手応えを与えてくれるような確固としたもの」が当たります。これが82行目にあるように「計算に切りつめられてしまうことのない」ものです。これら一連の流れを記述できれば正解です。

問六 接続語問題です。選択肢の四つの語が必ず一つずつ対応します。Aは逆接の「ところが」、Bは例示の「たとえば」、Dは順接の「ですから」、Cは換言・要約の「言いかえれば」がそれぞれ入ります。

問七 漢字問題です。ア「敵」、イ「台無」、ウ「発展」、エ「禁」、オ「至高」です。楷書で丁寧に書く練習を日頃からしておきましょう。

問八 内容一致問題です。正解はエです。ア「信じるという行為自体は危険なもの」、イ「その時こそ神の存在について現代に示す機会なのだ」、ウ「何もかもが疑わしい時代だからこそ…『合理化への信仰』が芽生えてきた」がそれぞれ誤りです。

2 出典：瀬尾まいこ『掬えば手には』

問一 三行問題です。傍線部(1)から、「香山」とってはということが「とんでもないこと」にあたるのかを記述する問題です。中学一年の「香山」はバスケット部員だったが、100メートルを12台で走れたので、体育の教師に見込まれて陸上の練習に参加させられます。しかし「香山」は速く走ることや、記録を出すことに意味を見出していなかったので、練習が嫌でした。しかもバスケット部の先輩や陸上部の先輩、体育教師の指導など、人間関係も含めて心身ともに疲れて、ついに走ることを辞めてしまいます。中学三年になり、誰にも陸上のことを言ってこなくなってから、やっと「自分は自分の才能を生かすことを自分の手でつぶしてしまった」と気づいたのでした。これら一連の流れをまとめます。「足が速いことを見込まれて才能を伸ばす機会があった」「速く走ることや記録を出すことに意味を見出せず」「厳しい練習や人間関係に耐え切れなくなって」「陸上を辞めてしまった」と記述できればよいでしょう。

問二 「香山」の心情を問う問題です。正解はエです。ア「サークル活動になじめなくなったのは、走ることを真剣にやってみたいと思ったからである」、イ「梨木はわかっていないと、心の中で苦々しく感じながら」、ウ「自分の軽率さが恥ずかしく」がそれぞれ誤りです。

問三 「香山」「梨木」それぞれの、相手への感謝の気持ちを記述する問題です。所定の解答欄に合わせて、それぞれ二行で書きます。「香山」は、「梨木」に会って走りたいたいという気持ちがよみがえったこと、そして自分の実力を思い知ることができたことを、「梨木」に感謝しています。一方で、「梨木」は、陸上にまったく興味がなかった自分に、走るのがこんなにも気持ちがいいということを教えてくれた「香山」に感謝しています。それぞれ解答欄と設問要求に対応させて記述します。

問四 「梨木」の心情問題です。傍線部(4)の内容は、「梨木」自身のこれまで抱き続けてきた劣等感であることがわかります。正解はアです。イ「家族に原因がある」、ウ「真剣に取り組もうとする強い意志を持つことができずに」、エ「ごく普通の配慮に対しては何もしてこなかった」がそれぞれ誤りです。

問五 三行記述問題です。「梨木」の心情を記述する問題です。普通で何も持っていないことに悩んでいた「梨木」だったが、逆に「香山」から見れば、突然体育館で励ましてくれて、その後二度もマラソン大会で一緒に走ってくれた「梨木」は特別な存在です。だから「香山」は「梨木」に「これのどこが普通?」と言って笑います。「普通であること」に悩んでいた「梨木」が、「香山」から「普通でない」と他意が含まれない笑顔で言われて、わだかまりがとけたような気持ちになります。この二人のやり取りを記述すれば正解です。

問六 擬音語・擬態語等の語句問題です。Aは、「部活が終わってAの体で」なので、ウ「フラフラ」が入ります。Bは、「想像していた以上にたいしたことないってBきた」なので、カ「がっくり」が入ります。

問七 語句問題です。(一) 本文I「はっきりと言わないでおいた」＝「Iを濁した」は「言葉」を濁した」です(「お茶を濁した」では「ごまかした」の意味が入ってしまいます)。本文II「手ばかりや無駄がなくこなせる」＝「IIなくこなせる」は「そつなくこなせる」です。本文III「なるほどと思えない」＝「IIIに落ちない」は「ふ(腑)に落ちない」です。(二) 本文aに「誇らしげに、得意そうにふるまう様子」という意味の四字熟語を選びます。(三) b・c・dの説明に対応する四字熟語の空欄部に正しい漢字を書く問題です。b以心伝心、c大同小異、d牛飲馬食、がそれぞれ正解です。

問八 内容一致問題です。正解はエです。ア「辞めてしまっただ後は、本気で走るのが怖くなって…」、イ「…自分の能力が周囲から認められたとき、…中学三年生の頃を思い出してみたが、…」、ウ「やはり普通にすることで気づけることもある」がそれぞれ誤りです。